



〈研究〉シュタムラーノ唯物史觀論ノ一考察

山口, 正太郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 30(6):945-966

(Issue Date)

1921-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053323>



研 究

シユタムラーノ唯物史觀論ノ一考察

同志社大學教授

法學士 山 口 正 太 郎

一

坦々砥ノ如キ大道ヲ驀ラニ進ミ來ツタ凡ユル思想モ途ニハ荊棘多キ山路ニ打突カラネバナラナカ
ツタ、此荊棘ヲ開クニアラズンバ未來永劫ニ輝クベキ思想ノ曙光ヲダモ見出スコトヲ得ナイ、總テ
ノ獨斷論的思想ハ批判論ノ「荊棘ニ富メル途」ヲ通過シ來ツテ初メテ自己ノ運命ヲ開拓シ得ル。

ヒュームニ行詰ツタ思想ハ内ニ一大開展ヲナスベキ萌芽ヲ有シツ、カントヲ待ツタ、カント自身
ノ言葉ニヨレバ「此純粹理性批判 Kritik der reinen Vernunft ハ途上ニ横ハル石デアツテ之ヲ排除
シ行ク事ニヨツテ先驗哲學ハ成立スルデアラウ」(Kant's Brief an M. Herz vom 20. Aug. 1777.
Kuno Fischer, Geschichte der neuen Philosophie, Bd IV S. 79) ト云ツタ其純理批判ノ出現以來、
凡ユル思想ハ一度ハ此批判ノ光ニ輝サレ洗練セラレナケレハナラナイ、然ラズンバ獨斷論テフ石ノ

下ニ侮蔑ノ對象トサレルデアラウ

此批判ノ流ニ掉シテ諸科學者ハ各獨自ノ科學ノ世界ヲ嚴密ニ檢討シツ、建設ノ事業ニ向ツタ、我
シュタムラーハ法理學ノ境地ニ於テカントニ於ケル思想ノ大展開ヲ受ケ入レシュタムラーヲ通過セ
ズンバ「前シュタムラー的」ノ形容詞ヲ甘受セネバナラヌ程、法理學ノ立場ニ於テ鮮ニカントヲ消化
シ且ツ開展シタ。シュタムラーハ更ニ一步ヲ進メテ社會哲學ノ部門ニ其炬火ヲ掲ゲテ肉迫シタ、茲
ニ考察ノ步ヲ進メントスルノハ其社會哲學ノ一部タル唯物史觀論デアル。

諸科學殊ニ思想的部門ニ於テハ先人ノ遺蹤芳躅ヲ慕ヒ其思索ノ跡ヲ追フ事ハ重要ナ仕事デアル、
ソノ勞ヲ惜ンデ小サキ自己ヲ振リ翳シテ進ム事ハ餘リニ大膽ニシテ且ツ效果少キ業デアル、此意味
ニ於テ批判論的思想ノ先端ニ立チテ所謂 *Sammlerische Terminologie* ナル獨特ノ表現方法ヲ以テ
含蓄ニ富メル内容ヲ批擲セルシュタムラーヲ檢スル事ハ無意味デハアルマイト思フ。

(註) シュタムラーノ著述ハ法理學ノ方面デハ *Theorie der Rechtswissenschaft*, Die Lehre von dem richtigen Rechte,
Wesen des Rechtes und der Rechtswissenschaft ガアリ社會哲學ノ方面デハ *Wirtschaft und Recht* ガアル、茲ニハ
後者ノ一九一四年改訂第三版ニヨツテ解説研究スル。

二

思惟 Denken ニ對シテ與エラレル對象 Gegenstand ガ吾人ト第一ノ關係ニ立ツ時、即チ感覺ニ

訴フル時、之ヲ直觀 Anschauung ト云フ、此直觀ハ乍然對象、ガ與、エラ、レタ、時、ニ、ノ、ミ、成立スル Diese (Anschauung) findet aber nur statt, sofern uns der Gegenstand gegeben wird, (註1) 吾人ノ心 Gemittガ對象ニヨツテ觸發 affizieren セラレテ之ヲ受入レル作用ヲ感性 Sinnlichkeit ト云フ、感性ニヨツテ受入レラレタ直觀ハ更ニ悟性 Verstand ニヨツテ思惟セラレテ概念 Begriff ガ出來ル、吾人ノ感覺ニ對シ與エラルベキモノヲ質料 Materie ト呼ビ之ヲ或關係ニ於テ整頓スルモノヲ形式 Form トスル、此形式ハ其自身感覺デアルトスレバ其感覺ヲ整頓スベキ形式ヲ要スルコト、ナツテ幾何之ヲ追ヒ行クモ果シガナイ、此形式ハ感覺デアル事ハ不可能デアルカラ質料ハ後天的 a posteriori ニ與エラレルケレドモ形式ハ先天的 a priori ニ心ニ備ツテキル im Gemite a priori bereit liegen (註1)

(註1) Kant, Kritik der reinen Vernunft. 2 Aufl. S. 33.

(註1) Kant. 2 Aufl. S. 34. Kuno Fischer. Bd IS S. 389. 390.

以上ハカント純理批判ノ初メノ部分タル先驗的感性論ノ冒頭デアルガ吾人ハ何ガ故ニカントノ認識論ニ迄、溯ラネバナラナイカ、其ハカントニ溯ルコトニヨツテマールブルヒ派ノ意義ヲ探ネシユタムラーノ唯物史觀論ノ依ツテ出ヅル根據ヲ最モ簡單ニ短刀直入的ニ了解スルヨスガトナルカトモ思フカラデアル。

對象ハ其自體ニ即チ我々ノ感性ノアラユル感受性ト離レテ如何ナル性質ヲ有ツカハ我々ニ全く不可知デアル、我々ノ知ル處ハ對象ヲ知覺スル我々特有ノ仕方ノミニスギヌ、Was es für eine Bewandnis mit den Gegenständen an sich und abgesondert von aller dieser Receptivität unserer Sinnlichkeit haben möge, bleibt uns gänzlich unbekannt. Wir kennen nichts, als unsere Art, sie wahrzunehmen, die uns eigentümlich ist. (註三) 物自體ハ我々ノ認識ノ範圍外デアル、我々ニ問題トナルハ感性ニ與エラレタ對象デアル、感性ニ與エラレタ多様ナモノハ必然的ニ統覺ノ根原的綜合的統一ノ下ニ包括サレテ初メテ直觀ノ統一ガ出來上ル Das mannigfaltige in einer sinnlichen Anschauung Gegebene gehört notwendig unter die ursprüngliche synthetische Einheit der Apperzeption, weil durch diese die Einheit der Anschauung allein möglich ist (註四)

以上ハカントノ感性論ノ要點デアルガ茲ニ是正サルベキ點ガアリ、新カント派殊ニマールブルヒ派ノ主要ナル主張ガ存在スルノデアル。

(註三) Kant, 2 Aufl. S. 59

(註四) Kant, S. 143.

三

カントノ認識論ハ直觀ト思惟トラ對立セシメテ前者ヲ先ヅ與エラレタモノトシテ後者ヲシテ統一

構成セシメヨウトスル、思惟ハ自己以外ノ何物カニヨツテ制約ヒラレル、即チ自己以外ニ起源ヲ有スルコトニナル、與ニラレタル直觀ガ無クシハ思惟ハ發動セナイコトニナル、カントニ於テハ直觀ト思惟トハ融和セラレザル二元ノ上ニ對立シテ居ル、換言スレバ心理主義ヲ排斥シテ自己ノ立脚地ヲ鮮明スベキ論理主義ガ猶心理主義ノ殘滓ヲ自己ノ中ニ留メテ居ルノデアル、思惟ニ對シテ外部ヨリ與エラレタルモノ Das Gegebene トハ問題トシテ提出セラレタルモノ Das Aufgegebene デアリ思惟ニヨツテ要求セラレタモノ Das vom Denken Geforderte デアル。思惟ニ對シテ外部カラ何等カノ内容ヲ與エントスルガ如キコトハ思惟其モノ、本質ヲ了解セナイモノデアル、思惟ハ自ラ働キ自ラ生産スルコトニヨツテ自己ガ自己ノ内容ヲ創造スル、有ヲ作り出スカラ無デハナクテ非有デアル、其ハ靜的デハナクテ動的デアル、換言セバ作り出スモノ即チ作り出サレタモノ Erzeugung selbst ist das Erzeugnis (註五) デ作り出サレタ内容ハ作り出ス事ソノ事ニ外ナラナイ、思惟スルコトガ思惟セラレタルモノ即チ思惟内容 Denkinhalt デアル、斯クノ如キ觀方ヲ以テカントノ難點ヲ救ハントスルモノハマールブルヒ派ノコーエンデアル、彼ニ從ヘバ思惟ノ根源ハ思惟以外ニ存在セナイ、思惟ガ思惟ヲ作り出スノデアル從ツテ彼ノ認識論ハ感覺論ヲ排除シタ純粹思惟論デアツテ論理主義ヲ徹底シタモノデアル、Wir fangen mit dem Denken an. Das Denken darf keinen Ursprung haben ausserhalb seiner selbst, wenn anders seine Reinheit uneingeschränkt und unget-

rißt sein muss,.....Mithin muss die Lehre vom Denken die Lehre von der Erkenntnis werden (註六)

(註五) Hermann Cohen, Logik der reinen Erkenntnis 2 Aufl. 1914. s. 29, 53, 148.

(註六) Cohen, Ibid.S. 13.

思惟ハ自己發展トシテ自己ノ内容ヲ作り出シ行クト共ニ自己ガ自己ノ内面ニ深く立チ歸ラントスル要求ヲ持ツテキル、根源ヨリ出デ、根源ニ歸ラントスル傾向ハ之ヲ反面ヨリ見レバ對象ニ向ツテ無限ニ進ムコトデアル、根源 Ursprung ニ歸ルコトハ對象 Gegenstand ニ進ムコトラ意味スル即チ楯ノ兩面デアツテ無限ニ兩方向ニ互ニ自己ヲ投射シツ、進ンデ行クノデアル (註七) 斯クテ思惟ソノモノハ作り出スベキ根源トシテ無ニモアラズ有ニモアラザル底ノモノデ強イテ云フベクンバ absolute Lutes Nichts ニ對スル relatives Nichts トモ云フベキデアラウ、然カモリツカートノ價值ノ如ク靜的ニアラズシテ絶エス作り出サントシテ動ケルモノデアルガ此ノ作り出スベキ根源ト作り出サレタル對象トハ全然對立スルモノテハナイ、兩者ハ相依關係デアツテ一アツテ他ハ初メテ其意義ヲ有スベキモノデアル一ハ他ヲ創造セントシ他ハ更ニ創造スベキモノニ返ラントスル無限ノ相依關係ソノモノニ眞ノ認識論ノ問題ハ解決點ヲ見出スベキ者デアラウ、茲ニ獨特ナル相依的一元論 Korrelativer Monismus ガ現出シテ形式 Form ト質料 Materie トノ相依關係ガ闡明セラレル。

(註七) Natorp, Die logischen Grundlagen der exakten Wissenschaften. 1910. S. 34.

私ハマールブルヒ派ノ認識論ヲ叙述シ來ツタ筆ヲ翻シテ當ノ本尊タルシユタムラーニ向ケネバナ
ラナイ、何故マールブルヒ派ノ認識論ニ迄叙述ノ筆ヲ走ラセタカト云フコトハ後ニ明カニナルデア
ラウ、

抑モ人類ハ孤立シテ生活シ得ルモノデハナイ、孤立シテ生活シ得ルトシテモ其ノ人ナルモノハ自
然科學ノ對象トシテノ人デアツテ普通ニ觀念セラレタル人デハナイ、人ハ社會生活ヲ營ムニヨツテ
初メテ人タル意義ヲ獲得スル。

然ラバ社會生活トハ何ゾヤ。單ニ人間ノ共同的集合生活ヲ云フノデアラウカ、ナトルプハ孤立セ
ル人間ハ一ノ抽象デアアルコト怡モ物理學者ノ假定セル原子ノ如キモノデアルト云ツテキル(註八) 斯
クノ如キ抽象的ナ人間ガ或機會ニ多數集合シタト云フ自然現象ヲ以テ社會トハ云ヘナイデアラウ
ジンメルハ個人間ニ相互作用 Wechselwirkung アルコトヲ以テ社會ノ特徴ナリトシタ(註九) 其相
互作用ナルモノハ單ニ人間相互間ノ物理的交通ノ意味デナク心理的ナ相互作用ト解スルニシテモ個
人間ノ心理的相互作用ト云フ經驗内容ヲ以テ直チニ社會其モノヲ意味ストナスハ未ダ自然科學の見
解ヲ脱セザルモノト云ハザルヲ得ナイ、社會ハ個人間ノ心理的相互作用ト云フ内容以上ニ何等カノ

抽象的統一ヲ要スル、其抽象的統一ニヨツテ客觀性ヲ得ナケレバナラヌノデハナカラウカ。

(註八) Natorp, Sozialpädagogik. 3 Aufl. 1909. S. 10.

(註九) Stimmel, Über die soziale Differenzierung. 1903. S. 13

シュタムラーハ曰ク、社會トハ決シテ人間ノ共同的存在ソノモノヲ云フノデハナイ、社會生活ガ我々ノ認識ノ對象トシテノ獨自性ヲ有スルガ爲ニハ自然科學的ナ人間ノ集合以上ニ更ニ形式上ノ統一ヲ要スル、其形式的統一トハ人間ノ相互作用ヲ外部ヨリ規制スル法規ヲ意味スル即チ、社會生活トハ外部ヨリ規制サレタル人類ノ共同生活デアル。 Soziales Leben ist äusserlich geregeltes Zusammenleben von Menschen (註十) 此外の規制ハシュタムラーニヨレバ (1) 成法 die rechtlichen Satzungen (11) 慣習法 Konventionalregeln (註十一) カラ成リ立ツテキルガ此外の規制無キ時ハ社會ハ存在セナイ、例ヘバ動物ガ多數存在シ相互ニ心的作用アリトシテモ外的規制無キ限り眞實ノ社會存在ストハ云フヲ得ナイ、然ラバ人間ノ原始社會即チ外的規制無キ時代ハ之ヲ社會トハ云フヲ得ナイノデアルガ、シュタムラーハ外的規制ヲ餘程廣義ニ解シテキル、彼ハ曰ク「人間ハ目的ヲ追フテ活動スルモノデアルガ、此際他人ヲ以テ自己ノ目的ヲ達スル手段ト見、他人ハ又其人ヲ以テ手段ト考エル此目的手段ノ觀念ニ於テ相互關係ノ下ニ活動スル場合ニ人々ハ外的規制ニヨツテ束縛サレタモノト云フ」(註十二) 斯ク解スルナラバ外的規制ノ下ニ立タナイ社會ナルモノハ經驗上考エ能ハザル

モノデアツテ苟モ人類が團體トシテ存在スル以上何等カノ意味ノ外的規制ノ下ニ包括サレテキル譯デアルカラ人類ノ團體ガ甚シク低級ノモノデモ即チ所謂原始社會デモ猶且外的規制ノ下ニアルノデシユタムラーノ外的規制中ノ慣習法ハ餘程廣義ニ解サレテキル譯デアアル、シユタムラーガ自然科學的社會ト眞實ノ社會即チ社會科學上ノ社會トヲ分ケタガ事實上ニ於テハ兩者ノ差別ハ存在シナイ譯デアアル。

(註十) Stannler, Wirtschaft und Recht, 3 Aufl. 1914, S. 82

(註十一) Stannler, a. a. O. S. 116

(註十二) Stannler, a. a. O. S. 96

假令如何ナル低級ナ團體デアツテモ其中ニ家族關係、姻族關係、主從關係ガアレハ外的規制ガ存在スル所有關係、債權關係、相續關係等ハ勿論外的規制ニヨツテ初メテ解シ得ラレルノデアアルカラ吾人ノ經驗上ニ於テハ外的規制無キ社會ハ考エ得ラレナイ、「エスキモー」人デスラ成文法ハ無クトモ法トシテノ束縛ヤ拘束の意嚮ハ存在シテキル(註十三) 此意味ニ於テハキスチアコウスキーガ外的規制無キ人類ノ共同生活ヤ相互作用ハ之ヲ社會ト名クベカラザルカトシユタムラーニ反問シタノハ無意義ナ事ト云ハナケレバナラス。(註十四)

ジンメルハシユタムラーノ外的規制說ニ反對シテ曰ク「外的規制ナルモノハ個人間ノ相互關係ノ

結果トシテ產レ出デタモノニ過ギナイ、換言スレバ社會先ヅ存在シテ外的規制ハ其ノ後ニ作ラレタモノデアル、外的規制アツテ初メテ社會存在スルニアラズシテ外的規制ハ社會ノ存在ヲ前提スルモノデアル」ト(註十五)乍然此論ハシュタムラーノ外的規制ノ眞義ヲ了解セナイモノデアル、ジンメルニヨレバ時間的ニ、即チ經驗的ニハ社會先ヅ存在シテ外的規制其後ニ生ズルト云フノデアルガ、シュタムラーノ外的規制ナルモノハ經驗的時間的ノモノデナクテ論理的優越性 *logische Primus* ヲ有シテキルノデアル、即チ社會ノ構成ニ不可缺少必然的ナ形式デ其自身内容ヲ有セズシテ單ニ形式トシテ論理的優越性ヲ持シテ社會ヲ構成スルモノデアル。(註十六)從ツテ歷史的ニ各社會ヲ觀察シテ其社會ノ外的規制如何ト尋スルハ誤リデアツテ外的規制ヲ論理的前提トシテ歷史的ニ各社會ガ成立シタノデアルカラ寧ロ如何ナル論理的條件ノ下ニ人間ノ共同生活ガ獨自ノ科學ノ對象トナリ得ルカト尋ヌベキデアル。(註十七)

或論者ハ外的規制ト國家トヲ關聯セシメテ考エルガ外的規制ヲ論理的形式ト考エル限り國家トハ何ノ關係モナイ、外的規制ヲ經驗的ニ見テ國家ガ權力ヲ以テ之ヲ個人ノ上ニ行使スルト假定シテモ國家ハ社會ノ一種デアルカラ外的規制ト國家トノ關聯ハ偶然ノ關係ニ過ギナイ。外的規制ハ國家又ハ其權力ノ存在スルト否トヲ論ゼズ論理的ニ個人ノ社會的行爲ニ先在シ社會科學的觀察ヲ可能ナラシムルノデアル。次ニ外的規制ヲ斯ク解シ來ル時ハ孤立セル個人ト社會生活ト此二種類以外ニ人間

ノ生活ニハ中間階段ト云フモノハ存在セナイ、全ク孤立セル人間即チ生物學上ノ人間カ、然ラズン
バ外的規制ノ下ニ制約サレテキル社會生活ガ存在スルカ二者孰レカデアツテ此以外ノ第三者ハ存在
セナイ、他人ト交通スル時ニハ既ニ論理的ニ先在スル外的規制ノ下ニ制約セラレテキルト云ハネバ
ナラヌカラ、孤立生活カ社會生活カ、此以外ノ生活ハナイ譯デアル。孤立生活カラ進ンデ他人トノ
交通ニヨツテ外的規制ニ拘束セラル、時ニハ形式上ニ於ケル大變化ガアル、外的規制ヲ前提トスル
ヤ否ヤノ判然タル區別ヲ越エテ行クベキ大變化ガアルガ普通ニ歴史家ガ家族生活カラ發達シテ遂ニ
國家生活ニ至ルト説ク其發達説ナルモノハ内容ノ變化發達ヲ叙述セルモノデ形式トシテノ外的規制
ガ適用セラル、ヤ否ヤノ問題トハ關係ガナイ。(註十八)

(註十三) Stammler, Das Recht im staatenlosen Gebiete, in Festschrift für Binding, 1911, s. 331. Theorie der Rechts
wissenschaft 1911. S. 422.

(註十四) Kisiakowski, Gesellschaft und Einzelwesen, 1899. S. 75.

(註十五) Simmel, Zur Methodik der Soziwissenschaft, Schmollers Jahrbuch 1896.

(註十六) Stammler, Wirtschaft und Recht. 3. Aufl. S. 98.

(註十七) Stammler. a. a. O. S. 101.

(註十八) Stammler. a. a. O. S. 100-103.

五

社會生活ノ形式トシテノ外的規制ニ對立シ、否一步進メテ考フレバ外的規制ニヨツテ制約セラル

、ニヨツテ初メテ其意義ヲ有スベキ社會生活ノ内容ガ次ニ問題トナル。

「人類ノ凡ユル行爲ハ人類ノ欲望満足ニ向ケラレル、從ツテ社會生活ノ内容ハ欲望満足ニ向ケラレル人類ノ共同行爲デアル」(註十九)乍然何等外的規制ニヨツテ制約セラレナイ欲望満足ノ共同行爲ナルモノハ全ク自然現象デアル、一ノ技術ニ外ナラナイ、社會科學ノ對象トシテノ社會生活ノ内容ハ欲望満足ニ向ケラレル且ツ外的ニ規制サレタ人類ノ共同行爲デアル。生活條件ノ技術的、自然科學的研究ハ此際考慮ニ入ル、必要ハナイ、社會生活ノ形式ヲ法ト名クレバ内容或ハ實質ハ之ヲ社會經濟 *Sozialwirtschaft* ト呼ビ得ル、此實質ハ欲望満足其モノデハナクテ満足ヲ得ントスル人間ノ共同行爲ヲ云フノデアル。

以上述べ來ツタ社會生活ノ形式ト實質、法ト經濟トハ如何ナル關係ニ立ツカ、一方ガ原因トナリ他方ハ結果トナルノデアロウカ、兩者ガ同時ニ對立スルトシテモ兩者ハ如何ナル交渉ガアルノデアロウカ。

マールブルヒ派ノ哲學ニ於テ、創リ出スベキモノト創リ出サレタモノトハ對立スルモノニアラズシテ兩者互ニ相依リ一方ハ他方ヲ俟チテ初メテ其意義ヲ有スベキコトハ前ニ述べタ、創リ出サレタモノトシテノ *Materie* ハ創リ出スベキ *Form* ノ結果デハナイ、*Materie* ハ *Form* ガアツテ初メテ眞ノ實質タル意義ヲ發揮シ *Form* ハ *Materie* ヲ俟ツテ初メテ形式タルノ實ヲ有ス、兩者ハ同じモ

ノ、二方面ニ顯ハレタルモノデアル、此相依關係ハ元ト社會生活ニ於ケル形式ト實質、法ト經濟トノ關係ニモ類推シ得ル、「規制サルベキ實質無キ法規ハ空虚デアリ、共同行爲ノ一定ノ法規ノ考慮無キ社會經濟ノ觀念ハ混沌デアル」Eine Regel ohne normierten Stoff ist leer, die Vorstellung einer gesellschaftlichen Wirtschaft ohne den Gedanken an bestimmte Regelung des Zusammenwirkens ist wirt. (註二十)

我々ハ社會生活ノ形式ト實質トノ觀念ニ就テハ一元的立場ヲ採ラネバナラス、普通ニハ法ト經濟トハ全然獨立セル二ツノ觀念ト考エラレルガ實ハ同一物ノ兩面觀デアツテ經濟無キ法ハ無意義デアリ法無キ經濟ハ無秩序ナ素材ノ羅列デアル、法ハ素材ヨリ超越スルコトニヨツテ普通妥當性ヲ有シ社會生活ノ形式タル役目ヲ果スノデアルガ然モ法ハ其内容ニ於テ素材ヲ離レテ先天的ニ成立シ得ルモノデハナイ、Es gibt keinen einzigen Rechtsatz, der seinem positiven Inhalte nach a priori feststände. (註二十一) 經濟ハ又法ヲ離レテ解シ得ラレナイコトハ例ヘバ地代、利子、賃銀、利潤ガ法ト關係シテノミ解セラレ、貨幣、信用、價格ノ決定ノ如キモ亦法ト關係シテ初メテ解セラル、ノデアル、經濟學ガ獨自ノ科學トシテ成立シ得ルタメニハ外的ニ規制サレタル人類ノ共同行爲ヲ其内容トシテ有スル時ニ限ラル。單ニ欲望満足又ハ其ヲ目的トスル共同行爲ノ觀察ノミデハ自然法則ノ對象トナリ技術ノ目的トナルニ過ギナイ、内容ガ外的ニ規制サレルコトヲ條件トシテ社會科學トシテ

ノ經濟學ガ初メテ成立スルノデアル。

(註十九) Stammier, Wirtschaft und Recht. S. 127.

(註二十) Stammier, a. a. O. S. 155.

(註二十一) Stammier, a. a. O. S. 173.

共產主義ノ世ニ於テハ資本ハ生産手段ト云フ一ノ技術上ノ對象デアルガ現制度ノ下ニ於テハ私有財産權ノ對象トシテ經濟上ノ意義ヲ有シテキル、法律制度ノ下ニ拘束セラレテ社會經濟學上ノ對象トナリ得ルノデアル、法律上ニ於テハ先占トハ無主物ヲ所有權ノ下ニ持チ來ス事デアルガ經濟上ニ於ケル先占トハ社會經濟上使用シ得ル範圍 in den Gebrauchsbereich gesellschaftlicher Wirtschaft 或物ヲ持チ來ス事デアルト通常解セラレテキル、乍然社會經濟上使用シ得ル範圍ニ持チ來ス事ハ一ノ技術デ自然科學ノ對象デアル、社會科學ノ對象タラシムルタメニハ所有權ヲ前提トセネバナラス、經濟學ノ對象タルニハ其素材ハ豫メ法ニヨツテ拘束セラレテキルノデ、法ト經濟トハ畢竟同一物ノ兩面デアル、前者ハ形式ヲ、後者ハ實質ヲ意味スル點デ兩者ノ發動ガ異ル譯デアルガ與エラレタルモノハ、外的ニ規制サレタル人類ノ共同生活ト云フ一ノ統一サレタル事實デアル。兩者ハ同じ對象ノ二ツノ必然的ニ結び付ケラレタ要素 zwei notwendig verbundene Elemente eines und desselben Gegenstandes sind デアル。從テ兩者ハ通常考エラル、如ク各獨立シタ對象デ相互ニ作用シ合ヒ兩

者ガ適當ニ調和シテキルノデハナクテ同一物ノ二ツノ要素デアルカラ二ツヲ別ケテ考エル事ハ實ハ抽象ノ結果デアル、(註二十二)斯ク考エ來ルト此二ノ要素間ニハ因果ノ關係ヲ認メラレナイ、一ツノモノ、形式ト實質トノ間ニハ論理上先後ノ關係ハ無ク亦兩者間ニ輕重ノ差モ無イ。

六

唯物史觀ハ「生産關係ノ總和ハ社會ノ經濟的構造——法制上及ビ政治上ノ上層建築ガ依ツテ以テ立ツ所ノ、又一定ノ社會的ノ意識形態ガ之ニ適應スル所ノ、眞實ノ基礎——ヲ成スモノデアル。物質生活ノ生産方法ハ一般ニ社會的政治的、及ビ精神的ノ生活道程ヲ條件ツケル」(註二十三)ト主張スル、此句ノ冒頭ノ生産關係トハ單ニ技術上ノ生産ヲ意味スルノデハナク社會的の生産ヲ指スコトハ此句ノ一ツ前ノ句「gesellschaftliche Produktion」トアツテ Die Gesamtheit dieser Produktionsverhältnisseト受ケテ來タ事ニヨツテ明カデアルガ單ナル技術上ノ生産關係ハ社會科學ノ一學說トシテノ唯物史觀ノ對象トハナラナイ、茲ニ云フ生産關係ハ社會的ニ實現セラレタル生産方法 sozial verwirklichte Produktionsweise デアル、社會的ニ實現サル、ニハ、即チ單ナル自然科學上ノ技術關係ト異ルタメニハ其生産方法ハ既ニ何等カノ外的規制ノ下ニ制約セラレテ居ネバナラス、此點ハ看過スルトシテモ此生産關係ノ總和 Gesamtheitハ即チマルクスニ從ヘバ社會ノ經濟的構造 ökonomische

Struktur der Gesellschaft デアツテ之ガ基礎トナツテ其上ニ法制上、政治上ノ上建築ガ出來上ルノデアルカラ經濟關係ガ基礎デ法制ハ其上ニ出來上ルノデ經濟關係ニ變更ガアレバ上建築タル法制モ亦其ニ從ツテ變化ヲ受ケル、兩者ニハ嚴密ナル意義ノ論理的因果ノ關係ハ無イニシテモ前者ノ力ガ後者ニ及ボス點ニ於テ即チ後者ハ前者ノ影響下ニ於テ活動スル點ニ於テ通常稱ヘラル、因果關係ノ下ニ立ツト云ヒ得ル、然シナガラ經濟ト法制トハシュタムラーニヨレバ同一物ノ兩面デアツテ兩者ニ輕重ナク又如何ナル意味ニ於テモ因果ノ關係ハナイ、logische Prius トシテ法ヲ認ルケレドモ之ハ先驗的形式トシテヴァアツテ自然科學の因果ノ法則ニヨル優越性或ハ先驅性ヲ意味スルノデハナイ。經濟ガ基礎トナツテ其上ニ法制ガ形作ラレルニシテモ其原因タル經濟ガ自然科學の技術關係デ無イ限リ既ニ法ヲ豫想セルモノデアル、經濟ト法制トハ前後因果ノ關係デハナク同一物ノ兩面デーハ他ヲ豫定シテ初メテ其意義ヲ有ヌベキ關係ニ立ツテキル。

(註二十) Stammer, a. a. O. S. 298

(註二十三) 河上肇博士、近世經濟思想史論百八十五頁

社會現象ニ於テハ自然必然性ニ基ク因果ノ關係アルト共ニ他面手段ト目的トノ關係即チ目的論的考察ガアル、社會ノ發達ヲ自然必然的ナリト認ムル時、目的ニ從ツテ何等カノ社會運動ヲ起ス事ハ無意味ナリト云ハネバナラス、何等ノ運動ヲナサズトモ必然的ニ社會ハ或方向ニ進行スベキヲ以テ

社會運動ナルモノハ畢竟瀛車ノ中ニアリテ其速度ヲ早メンガタメ力ヲ入レツ、アルト等シク何等ノ貢獻ヲモ爲サナイ、唯物史觀ノ因果關係ヲ認ムルモノガ一方目的論的考察ニ基ク社會運動ニ參加スルハ矛盾デアル。乍然社會科學ニ於テ自然因果ノ關係ト目的論的考察トハ互ニ他ヲ排斥スル關係ニアルノデハナク兩者ハ相並ンデ補充的關係ニ立ツテキル、マルクスハ唯物史觀ヲ主張スルト共ニ目的論的考察ヲ排斥シタ譯デハナイ、醫者ガ病人ハ今晚中ニ死スト自然必然的因果關係ニ於イテ認ムルトシテモ猶治愈セシメントスル目的論的考察ニ從ツテ努力ヲスルハ兩者ハ決シテ排外的デナイト云フ例デアル、兩者ハ補充的ニ同時ニ存在シ得ルモノデアル、社會現象ハ總テ自然因果的ニ解シ得ベク斯ク解スル事が正當ナリトスレバ人ハ必ズ一度死スルモノナリト云フ自然因果現象ヨリシテ殺人モ自殺モ共ニ許容セラレナケレバナラス、社會現象ノ研究ニハ目的論的考察ヲ看過スルヲ得ナイ

(註二十四)

(註十四) *Stimmler, a. a. O. S. 415-425.*

原因結果ノ法則ニヨツテ經驗ヲ統一スル以外ニ手段目的ノ關係ニ於テ即チ目的論的考察ニヨツテ經驗ヲ統一スル時、其考察ガ客觀的ニ正當ナリトセラレルノハ如何ナル標準ニヨルノデアラウカ、其ハ個々ノ特殊ノ目的論的考察ガ依ツテ以テ立ツベキ最高ノ絶對ニ正當ナル目的論的考察ニ依據スル事ニヨツテ客觀的妥當性ヲ得來ルノデアル、此最高ノ目的論的考察ハ個々特殊ノモノヲ統一スル

立場ニアルカラ其自身普遍妥當性ヲ有シナケレバナラス、シュタムラーハ之ヲ終極目的 Endzweckト云ヒ個々ノ目的ハ此終極目的ノ方向ニ設定サル、コトニヨツテ其客觀性ヲ得來ルノデアル、從ツテ之ヲ倫理的ニ觀察スレバ人間行爲ノ方向ヲ定ムベキ標準デアルカラ之ヲ善ノ理念 Idee des Gutenト云フ事ガ出來ル。

此社會現象ニ對スル目的論的考察ハシュタムラーガカントノ哲學ヲ辿リナガラカントト離レタ處デ批判論的方法ニヨリナガラ遂ニ獨斷論ニ墮シタ點ダトシユタウデインガーガ云ツテキルガ(註二十五) 此點ハカント哲學ノ解釋如何ニヨルノデアルカラ姑ラク舍クトシテシュタムラーガ自然因果ノ法則ト目的論的考察トヲ相排斥スルモノニアラズシテ相補充スルモノナリト云ツタ點ハ如何、マクス、アドラーハ其著「マルクス派ノ諸問題」ノ第八章、唯物史觀ニ關スルシュタムラーノ批判ト題スル章ニ於テ曰ク、因果ノ法則ト目的論的考察トハ方法論的ニ觀レバ到底相容レナイモノデアル、同時ニ存在セシムレバ互ニ相排斥スル、然シナガラ之ヲ方法論的ニ觀ズシテ如實ノ事實トシテ見ル時ハ此兩者ハ吾人ノ意識内ニ於テ同時ニ並ンデ存在シ得ル。(註二十六) 從ツテ吾人ノ行爲ノ必然性ヲ因果ノ方法デ決定スルト共ニ同時ニ此必然性ヲバ我等ノ意慾ノ、我等ノ理念ノ力ノ意識トシテ感じ得ルト、so kann ich zugleich doch auch diese Notwendigkeit als Kraftbewusstsein eines Ideals,

meines Willens empfinden (註二十七) 此兩者ハ一ツノ過程ノ離ルベカラザル兩面デアツテ自然因果ノ法則ニヨツテ或事ヲ知ルト共ニ直チニ目的ノ設定ニヨツテ之ヲ行爲ニ移シ所謂目的論的考察ノ對象トスルハ兩者ノ間ニ時間ノ前後アルガ如クデアルガ實ハ一ツノ過程ノ兩面デアツテ同時ニ兩者カ双ビ存スルノデアル。

(註二十五) Staudinger, Recension des Wirtschaft und Recht, in Kant studien Bd I S. 132-137.

(註二十六) Max Adler, Marxistische Probleme. 1913. S. 249. 250.

(註二十七) Max Adler, a. a. O. S. 250.

七

マルクスノ唯物史觀ニ於テ所謂生産關係ハ社會的生產關係デアツテ自然科學的技術的生產關係デナイ限り、豫メ外的規制ノ下ニ制約セラレテキル、即チ經濟關係ノ成立ハ法ヲ豫想シタモノデアルカラ常ニ經濟ガ基礎デ法制ハ其上ノ建築物ニ過ギナイト云フ唯物史觀ハ誤レリトシユタムラーハ云ツテキルガ、マルクス自身ノ言葉ヲ辿ツテ見ルトマルクスハ所謂生産關係ハ社會的生產關係デアアルコトヲ云ツテキル。例ヘバ彼レノ「勞働ト資本」ニ於テ生産手段タル資本ヲ説明スル處ニ次ノ如ク云ツテキル。

「資本ハ原料、勞働用具及各種ノ生活資料ヨリ成立ツモノニテ、ソハ新タナル原料、新タナル道具

新タナル生活必要品ヲ生産スル爲メニ使用セラル、モノデアル。資本ヲ構成スル此等ノモノハ總テ勞働ニヨリ生産サル、モノニテ、ソハ勢働ノ生産物デアリ、蓄積サレタル勞働デアル。即チ新タナル生産ニ對シ之ガ手段トナツテ役立つ所ノ蓄積サレタル勞働ガ資本デアル。此ノ如クニ經濟學者ハ説明スル、ニグローノ奴隸トハ何ゾ、黑色人種ニ屬スル人デアル。之モ一ノ説明ニハ相違ナイ、黒奴ハ黒奴デアル *Ein Neger ist ein Neger* 彼ハ或條件ノ下ニ置カレテ初メテ奴隸トナルノデアル。紡績機械ハ絲ヲ紡グ爲ノ機械デアル。只或條件ノ下ニ於テ其ガ初メテ資本トナル。此等ノ條件カラ切り離シタナラバ金塊ガ其自身ニ於テ貨幣ニ非ル如ク、又砂糖ハ砂糖ノ價格ニ非ル如ク其ハ毫モ資本デハナイ」(註二十八)

以上ノ句ニ於テ黒奴ハ黒奴デアルガ或條件ノ下ニ *In bestimmten Verhältnissen* 於テ奴隸トナルト云フ或條件ト云フガ社會的關係ヲ意味スルノデアル。此句ニ續イテマルクスハ次ノ如ク云ツテキル。

「生産ニ於テ、人間ハ雷ニ自然ノ上ニ働キ掛クルノミナラズ、又人間相互ニ働キ合フモノデアル。彼等ハ或特定ノ方法ニ依リ共同ニ働キ *zusammenwirken* 且ツ相互ニ彼等ノ働ヲ交換スル事ニ依リテノミ初メテ生産ヲ爲シ得ル。生産スルガ爲ニハ、彼等ハ相互ニ一定ノ連絡及ビ關係ニ入り込ミ、且ツ此等社會的ノ連絡及ビ關係ニ於テノミ、始メテ彼等ノ力ガ自然ノ上ニ働キ、初メテ生産ガ營マレ

ル」(註二十九)

以上引用セル句ニヨツテ見モテマルクスハ生産關係ヲ單ニ技術關係トノミ見ナイデ社會生産關係ト解シタ事ガ分明ニナルト思フ。更ニ他ノ處ニ於ケルマルクスノ言葉ヲ見ルト彼レガブルードンニ答エタ「哲學ノ貧困」中ニ次ノ如ク云ツテキル。

彼レ(ブルードン)ハ次ノ事ヲ了解シテキナイ、ソレハ、此或社會的關係ハ恰カモ布ヤ麻ト同ジ様ニ人間ノ生産物デアツテ新シキ生産力ヲ獲得スルト人間ハ生産方法ヲ變更スル、生産方法ヲ變更スル事ニヨツテ生活維持品ヲ獲得シ、彼等ノ社會關係ヲ變更スルト云フ事デアル」(註三十)

又資本論中ニモ

「生産者ガ生産ニ關シ自然及ビ彼等相互ニ對シ見出ス處ノ關係ノ全體ヲ、經濟的構造ニ從ツテ觀察スレバ社會ト名クノデアル」(註三十一)ト云ツテキル。此等ノマルクス自身ノ言葉ニヨツテ明カナル如クマルクスノ云フ生産關係ハ即チ社會的生產關係デアル、苟モ社會的關係デアル以上、既ニ何等カノ法(廣義ノ)ヲ認メ之ヲ豫定シテキルノデアル。

以上述べ來リタル處ニヨツテ、シユタムラーガマルクスノ唯物史觀ハ其生産關係ガ法的關係ヲ看過セル點ヲ以テ缺點ナリト云ツタノハ當ツテ居ラナイノデアル、マルクスノ唯物史觀ニ云フ生産關係ハ社會關係デアツテシユタムラーノ意味ノ廣義ノ法ハ之ヲ豫定シテキルノデアル。

(註二十八) Karl Marx, Lohnarbeit und Kapital, S. 21

河上肇博士 社會問題研究第四冊二〇頁—二二頁

(註二十九) 河上肇博士 前掲書二二頁

(註三十) Karl Marx, Elend der Philosophie, S. 91.

(註三十一) Karl Marx, Kapital, III, 2, S. 353.